

地域行事 今年「平年作ならず」 雪中稲刈り・作占い

小正月に行われる民俗行事「雪中稲植え」の稲刈りが、2月1日に大太鼓の館前で行われ、今年の稲作の豊凶を占いました。

占いは、刈り取った稲の倒れ方や実の入りなどで今年の作柄を占います。JA鷹巣町青年部の小坂亮太さんが、農業関係者らが見守る中、稲の束を一株ごと慎重に刈り取り、JA鷹巣町稲作部会長の畠山喜久雄さんによって見立てが行われました。畠山さんは、実った稲穂が垂れるような姿の束が少なく「残念ながら今年も平年作にはならず」と占いました。



地域行事 黒留袖に丸まげ姿で行進 各地区で厄払い行事

恒例の厄払い行事が、2月1日に市内各地区の神社等で行われ、この1年の無病息災を祈願しました。

このうち鷹巣神社では、大厄にあたる数えで33歳の女性が、昔ながらの黒留袖に丸まげ姿で祈願する風習が受け継がれています。

鷹巣神社で祈とうを済ませた女性たちは、通称「女の神様」として知られる元町の三吉神社にも参拝。このあと、中心商店街のにぎわい創出に一役買おうと、正装姿のままで鷹巣駅前を目抜き通りを行進し、商店や道行く人々から注目を浴びていました。



合格祈願 粘り強く点数を伸ばして 合格祈願バター餅贈呈式

高校受験を間近に控えた1月19日、市内5中学校の3年生196人に日本バター餅協会（村井松悦会長）から鷹巣神社で祈とうを済ませた「点が伸びる合格祈願バター餅」が贈られました。

このバター餅は、桜の花びらの中に「点」という文字をあしらったオリジナルの包装紙に入っており、受験生一人一人の点数が伸びるようお願いを込め、贈呈しているものです。

この日は、バター餅が市内5中学校へ届けられ、受験生は合格に向けて気持ちを新たにしました。



防災訓練 文化財保護の意識高める 文化財防火デー火災想定訓練

文化財防火デーに伴う火災想定訓練が、1月28日に阿仁伝承館・異人館（阿仁銀山）で行われ、地域の文化財を守るための消防訓練に取り組みました。

訓練は、震度6強の地震が発生し、伝承館の照明器具が倒れて出火したとの想定で実施されました。

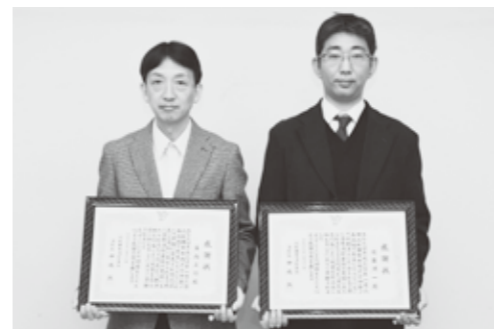
この日は、消防署や消防団、下新町自治会などから約60人が参加。ポンプ車や救急車両も出動し、参加者は、消火器やバケツリレーなどによる初期消火訓練を行ったほか、外国人を含む来館者の避難誘導や文化財持ち出しの手順を確認しました。



消防功労 消防功労の市民に感謝状 消防功労感謝状贈呈式

北秋田市消防本部は2月12日、今年1月に米内沢字伊勢ノ森地内で発生した住宅火災を早期発見し、初期消火にあたって被害の拡大を防いだ簾内正行さん（54歳・松山町）と佐藤潤一さん（38歳・松山町）に感謝状を贈り、防火への貢献をたたえました。

贈呈式では、中嶋誠消防長から2人に感謝状が手渡され、火災発見者の簾内さんは「佐藤さんらの協力があり大事にならず良かった」、初期消火者の佐藤さんは「子どもの頃から知っている家。大きな被害にならなくてほっとした」と話しました。



地域行事 地域の味求めにぎわう 第24回もちっこ市

第24回もちっこ市が、2月10日と11日に大太鼓の館駐車場で行われ、手作りの餅や各種特産品などを買い求める大勢の人でにぎわいました。

会場では、おしるこが無料で振る舞われたほか、約20店が出店し、北あきたバター餅や枝餅、干し餅、切餅、大福餅といった趣向を凝らした手作りの餅をはじめ、いぶりがっこや白菜漬けなどの漬物類、馬肉の煮込みや総菜など地元の特産品がズラリと並べられ、市内外から訪れた大勢の人たちが目当ての商品を探しながら買い求めていました。



市内のいろいろな出来事を紹介します



空港行事 冬の空港に親しむ 第19回大館能代空港かまくらんど

「第19回大館能代空港かまくらんど」が、2月12日に同空港ターミナルビルとその周辺で開催され、大勢の家族連れでにぎわいました。

駐車場には大型のかまくらや人気キャラクターの雪像4基が展示されたほか、長さ約30メートルの巨大そりコースが造成され、子どもたちがタイヤチューブで滑ったり、雪像の前で記念写真を撮るなど、雪国ならではの遊びを楽しんでいました。

このほか、餅つき大会やロビーコンサート、第87回大空市なども行われ、イベントを盛り上げました。

